

ホームページ（がん検診体験記・ドクターポイント）

「がん検診体験記」の中に、「ドクターポイント」という項目があります。
マウスポインタをその箇所に持っていく（バルーン状で表示予定）と、下記の説明文が表示されるようになります。

1-はじめ.jpg

胃がん検診、大腸がん検診、肺がん検診は 40 歳以上が対象で 1 年に一回、子宮がん検診は 20 歳以上、2 年に一回、乳がん検診は 40 歳以上、2 年に一回受けることができます。
これから、40 代の女性とともにがん検診を体験してみましょう！

<ドクターポイント>

【胃】

12-胃 1.jpg

胃がん検診は胃 X 線撮影（バリウム）で行います。検査の前日の夕食は午後 8 時ごろまでにすませて下さい。お水、ミルクなどの入っていないお茶などはその後も飲んで差し支えありません。朝もコップ一杯程度のお水は飲んで結構です。糖尿病以外の内服薬はそのまま内服して検査を受けてください。

13-胃 2.jpg

まず初めに少量の水と炭酸を発生する粉末（発泡剤）を飲みます。その後はゲップをしないように注意しましょう。

14-胃 3.jpg

続いて検査台でバリウムを一口ずつ飲んでいきます。誤って肺に入ると肺炎の原因になりますので、焦らずに飲みましょう。

15-胃 4.jpg

検査台が倒れたり、立ったり動きます。手すりにしっかりとつかまって、検査技師の指示に従い、落ちないように気をつけながら動きましょう。

16-胃 5.jpg

バリウムがたまっていたり、胃のひだ（しわ）がひきつれていたりという小さな変化を専門医が判定し、早期胃がんや胃潰瘍などの病気を発見できます。

17-胃 6.jpg

バリウムが長時間、胃腸に留まると便秘の原因になります。
当日は下剤を飲み、水分も普段より多めにとるようにしましょう。

【肺がん】

7-肺 1.jpg

たんの細胞を調べる喀痰細胞診は主に高喫煙者(一日に吸うタバコの本数×喫煙年数が400または600以上の方)が対象です。

8-肺-2.jpg

喫煙者非喫煙者ともに胸部X線撮影を行います。
上半身裸になるのに抵抗がある方は刺繍やプリントの入っていない無地のTシャツを持参するとTシャツのままでも撮影可能です。

10-肺 4.jpg

胸部X線検査は「末梢型」(太い気管支から離れた肺の端の方にできる肺がん)の発見に有効です。喀痰検査は「中心型」(肺の入り口の太い気管支にできる肺がん)の発見に有効です。非喫煙者は「中心型」の肺がんになることはほとんどないので喀痰細胞診を受けるメリットはほとんどありません。

【大腸】

3-大腸 1.jpg

大腸がんの検診は検便を行い、便の潜血反応(便に目に見えないような血液が混じってないかを試薬を用いて調べる方法)を検査します。

4-大腸 2.jpg

検便は別の便から二回とる方法が一般的です。同じ日でも別の便から採取するのであれば構いません。

5-大腸 3.jpg

便潜血反応が陽性であれば必ず大腸内視鏡検査(大腸カメラ)などの精密検査を受けましょう。自己判断は禁物です。
大腸内視鏡検査では大腸ポリープや早期大腸がんを発見できます。また内視鏡下でポリープを切除することもできますので、ポリープ内のごく早期のがんはそれだけで完治します。

【子宮】

19-子宮 1.jpg

まず初めに問診があります。妊娠・出産状況、最終月経、閉経後の方には閉経年齢、自覚症状の有無など聞かれますので、あらかじめメモをしていくと良いでしょう。

20-子宮 2.jpg

下着を取って診察台に上がりますので、できればゆったりしたスカートで行くと良いでしょう。

23-子宮 5.jpg

子宮頸がんは子宮の入り口から全体のした 1/3 のあたりまでの子宮頸部というところにてきる悪性腫瘍です。

子宮頸がん検診は「細胞診検査」といって、子宮頸部から専用のブラシや綿棒などの採取器具を用いて細胞を擦り取って顕微鏡で調べます。

【乳がん】

27-乳 1.jpg

乳がん検診はマンモグラフィという乳房専用の X線装置を用いて行います。まず汗を良くふき取りましょう。また制汗パウダーなどがついてると早期乳がんの兆候である「微細石灰化」と間違える可能性がありますので、パウダー類はしっかりとふき取りましょう。

28-乳 2.jpg

乳房を圧迫して平坦にすることで良い X線写真が撮れます。痛みは一瞬ですのでほんの少し我慢して下さい。また、月経終了後などの乳房の張りの少ない時期に撮影すると痛みを感じにくいと思います。

マンモグラフィは安全装置がついていて一定の圧力以上はかかりませんので、押しつぶされてしまう心配はありません。

30-乳 4.jpg

触診（触る検査）でわかる乳がんは一般的には 2cm 以上といわれています。マンモグラフィを撮影することで、絶対に手では触ることのできない「微細石灰化」と呼ばれる小さい粒々で発見できるごく早期の乳がんを見つけることができます。

31-乳 5.jpg

マンモグラフィとともに視触診検診も行われます。触診は自分自身で行うことが可能です。自己触診のやり方も聞いてみましょう。

32-乳 6jpg

検診施設によっては乳がんの自己触診モデルなどがおいてあります。乳がんは石のように硬いのが特徴です。その硬さを覚えておきましょう。

33 - おわり jpg

すべてのがん検診が終了しました。

数週間後に結果が送られてきます。

精密検査が必要と書かれていても、「精密検査 = がん」ではありません。「念のためにもう少し検査をしましょう！」という意味ですので、怖がらずに早めに病院を受診しましょう。異常のなかった方も定期的ながん検診をこれからも続けていきましょう。